

「秋田藩の絵図 ー描かれた城と城下町ー」

令和5年4月29日(土)～6月11日(日)

展示資料一覧

当館所蔵資料、および秋田県公文書館・秋田県立図書館所蔵資料の一部は、秋田県立図書館が運営している「デジタルアーカイブ」で画像が掲載されています。

展示資料一覧表の「アーカイブ」の欄に★が付いている資料がそれに該当します。

「★博_歴」…「デジタルアーカイブ」秋田県立博物館歴史部門の公開資料

「★博_民」…「デジタルアーカイブ」秋田県立博物館民俗部門の公開資料

「★公」…「デジタルアーカイブ」秋田県公文書館の公開資料

「★図」…「デジタルアーカイブ」秋田県立図書館の公開資料

展示室内に掲示しているQRコードをスマートフォン等で読み取ると、「デジタルアーカイブ」につながりますので、該当資料の詳細ページから画像を閲覧することができます。

また、ご自宅のパソコン等で資料の画像を閲覧することもできます。

秋田県立博物館デジタルアーカイブ URL <https://da.apl.pref.akita.jp/mus/>

秋田県公文書館デジタルアーカイブ URL <https://da.apl.pref.akita.jp/koubun/>

第1章 国絵図のかけら ー藩領と境目ー

No.	資料名	年代	文化財指定	所蔵者	アーカイブ	備考
1	六郡絵図	寛文4以前		当館	★博_歴	郡名変更前
	秋田藩領の六郡を描いた絵図。寛文4年(1664)に檜山郡→山本郡、豊島郡→河辺郡、山本郡→仙北郡と、郡名がそれぞれ改められるが、この絵図には変更前の郡名が記されている。なお、後の絵図で誤って国境に描かれてしまった森吉山は、ここでは秋田領内に描かれている。					
2	厳有院様御判物写	寛文4	1664	県公文書館		
	4代将軍徳川家綱(厳有院)から2代藩主佐竹義隆(秋田侍従)へ下された領知安堵状。秋田藩領の六郡が明記され、石高(20万5800石)も確定した。					
3	秋田領六郡絵図	元禄7以降		当館	★博_歴	
	元禄7年(1694)の地震で隆起した八郎潟の湖岸が描かれているため、元禄7年以降の成立であることは明らか。元禄15年(1702)の「出羽七郡絵図」(県公文書館蔵)と記載が一致する点も多いことから、元禄国絵図を仕上げる過程で作成された可能性も考えられる。森吉山が盛岡藩(南部藩)領との境目に描かれている。					
4	秋田新庄仙台南部境絵図	元禄13	1700	県公文書館	★公	縁絵図
	秋田藩と仙台藩の国境を描いた縁絵図(へりえず)。元禄の国絵図事業にあたり仙台藩が作成し、秋田藩へ提出したもの。国境に位置する山については、仙台藩側の呼称と秋田藩側の呼称がそれぞれ記されている。					
5	秋田領六郡絵図(部分図)	享保16	1731	県公文書館	★公	
	秋田藩と盛岡藩の国境の一部が描かれている。国絵図改正を求めたため、幕府へ提出した絵図の控であると考えられる。森吉山について、「元禄国絵図では国境に記したが、それは誤りで、国境から4～5里(16～20km程度)離れている」と貼紙で注記している。					
6	六郡仮下御絵図	延享3	1746	当館		
	右側の貼紙には、「元禄国絵図で書き落とした11か村を書き加えた」旨が記されており、絵図中の小さな付箋で示された村が概ねそれに該当する。ただし、この下絵図をもとに清絵図(絵図の清書)が仕上げられ、さらにそれが幕府へ提出されたかどうかは不明。					
7	仙北郡生保内御境之図	江戸時代		当館		
	秋田藩領である仙北郡と盛岡藩領との境目を描いた絵図。生保内村(現・仙北市)から盛岡藩領の橋場村(現・雫石町)へ向かう道が朱線で記されている。その道筋にある国見峠と的形には、境界標識となる境柱が立てられていたことが分かる。					

8	八沢木村境界絵図	江戸時代			当館		
平鹿郡の八沢木村（現・横手市大森町）は矢島藩や亀田藩との境目に接していた。中央上部は保呂羽山の山頂であり、波宇志別（はうしわけ）神社の堂舎が山中に描かれている。							
9	領内海岸絵図	江戸時代			県公文書館	★公	
沿岸部の岬や岩などが名称を添えて描かれており興味深い。制作の時期や目的は不明。外国船を監視するために設けられた唐船番所も7か所で確認できる。							

第2章 藩主のお膝元 ー久保田ー

No.	資料名	年代	文化財指定	所蔵者	アーカイブ	備考	
10	御国替当座御城下絵図	原・慶長10頃	1605		佐竹史料館		写・嘉永3年
旭川の河道が掘り替えられる前の久保田城下を描いたとされる絵図であり、川の西岸にも武家町が展開するなど、その後の城下町とは大きく異なる町割が描かれている。原本を模写した荻津勝彰とは、秋田藩士で絵師の荻津勝章（白銀齋）のことと考えられる。							
11	御城下古絵図	寛文年間			当館	★博_歴	
旭川掘り替え後の城下絵図の中でも、比較的古い時期の様子を描いたものの一つ。堀川が青、土塁が黒、道路が黄色で示され、侍屋敷については屋敷主・間口・奥行が明記されている。城下南東部（四之廓東方）の築地（現・秋田市南通築地・みその町の一部）などの一帯には屋敷が見られず、田や湿地が広がっていた。							
12	城下絵図	宝暦13	1763	県指定	当館	★博_歴	
寛文年間の「御城下古絵図」では屋敷がなかった南東部の築地をはじめ、城下町外縁部に町割が広がっている様子を読み取れる。絵図上部（南）の太平川対岸（愛宕下）にも武家町が設けられていることが分かる。							
13	羽州久保田大絵図	原・文政11頃	1829		県立図書館	★図	
東の本念寺から西の全良寺まで広範囲をとらえており、城下から離れた寺社や山、村などを詳細に描いている点特徴的である。また、屋敷地の間口・奥行の間数が記されていない点も、他の多くの城下絵図とは異なる。							
14	久保田城図	明治18	1885		当館	★博_歴	渡辺昌一 筆
三ノ丸の南に面した広小路の方角から眺めた久保田城の様子を、明治時代に回想して描いた作品。三階建ての隅櫓など、江戸時代の実態とは異なる描写が見られる。一方で、多少の誇張はあるが、右手の大手門と中央の中土橋の高低差が明瞭に描かれている点は興味深い。							
15	外町屋敷間数絵図	寛文3	1663	県指定	県公文書館	★公	
外町にある町人屋敷の間口・奥行の間数と居住者名を記した絵図。細長い短冊状の屋敷地が通りに面して並んでいた様子が分かる。通りをはさみ向かい合った屋敷の列で町が構成され、各町の両端には門が設けられていた。また、排水路が通っていたことも絵図に描かれている。凡例には、総町数49町、家数1787軒とある。							
16	久保田御城下外町絵図 甲	原・17世紀後半頃			県公文書館	★公	
外町の各町名や寺院名が記載されている。「外町屋敷間数絵図」の記載と大半が一致するが、町名などが一部異なる部分もある。							
17	秋田風俗絵巻	文化年間		県指定	当館	★博_民	荻津勝孝 筆
久保田城下やその周辺に住む人々の暮らしや行事について描いた絵巻で、11の場面に分けて構成されている。展示している場面には、外町で開催された歳の市でにぎわう人々の姿が描かれている。町の入口に門が設けられていたことも分かる。							
18	足栗毛	安政元	1854		当館		
刈和野（現・大仙市）から土崎湊までの街道筋の風景が描かれた作品。作者は不詳。展示している場面には、大町一丁目から通町に至る風景が描かれている。							
19	出羽国秋田城下新橋掛置候覚	宝暦3	1753		佐竹史料館		新橋架橋を申請
新橋（六丁目橋）の架橋と土塁の切り抜きを幕府へ申請するために作成された絵図。様々な書き込みや朱線の引き直し、貼紙が見られることから、下絵図であると推測される。旭川の各橋の間隔を示す数値まで細かく記載されている。							

20	出羽秋田城下絵図	文政13	1830		当館	★博_歴	新橋架橋を申請
<p>新橋（三丁目橋）の架橋と土塁の切り抜きを幕府へ申請するために作成された絵図（下絵図）。城下に新しい橋を設けたり、内町周縁の土塁に改変を加えたりする際にも、幕府へ届出をしていたことが分かる。</p>							
21	出羽国秋田居城絵図	寛政4	1792		当館	★博_歴	土塁損壊
<p>土塁で構築された秋田藩の城は大雨等の影響を受けやすく、修築を必要とすることが度々あったが、その際には幕府への届出が義務づけられていた。この絵図には、崩れた土塁の位置と損壊規模がそれぞれ記され、幕府へ修築を申請する文言も添えられている。</p>							
22	境目奉行届書〔居城土居崩之覚〕	(寛政4)	1792		当館		土塁損壊
<p>年代の記載がないが、寛政4年の居城絵図に対応する内容であるため、同年のものと比定できる。土塁損壊箇所的位置や規模が列挙されており、この情報をもとに絵図や願書が作成されたと考えられる。差出人の境目奉行は、藩内で城絵図の作成も担当していた。</p>							
23	御奉書写	寛政4	1792		県公文書館		修築許可
<p>同年に秋田藩が提出した久保田城の土塁修築申請に対する、幕府の許可状。差出人はいずれも幕府老中だが、この中には寛政の改革で有名な松平定信（越中守）の名前も見える。</p>							
24	出羽国秋田居城絵図	安永9	1780		佐竹史料館		本丸火災
<p>安永7年（1778）の本丸火災で焼失した建物の再建を申請するために作成された絵図。この火災で本丸御殿も焼失してしまった。再建工事にあたり、秋田藩は幕府へ多額の費用借用を願い出ており、幕府は藩へ1万両の貸付を実施した。</p>							
25	御奉書写	安永9	1780		県公文書館		修築許可
<p>安永7年の本丸火災で焼失した建物の再建が、幕府によって許可された。差出人の中には、当時の幕政を主導していた田沼意次（主殿頭：とのものかみ）の名前も見える。</p>							
26	出羽国秋田居城絵図	寛政9	1797		当館		本丸火災
<p>寛政9年にも本丸で火災が起こり、本丸北側の櫓や多聞長屋などが焼失した。この時に焼失した建物の再建を申請するために作成された絵図となる。</p>							
27	秋田久保田城絵図	文政4	1821		県公文書館	★公	国目付へ提出
<p>幕府の国目付（諸藩を監察するために派遣された役人）への提出用に作成された久保田城の城郭絵図。本丸や二ノ丸などの曲輪の大きさ、櫓・井戸などの数、堀の長さや幅など、実に詳細な情報が掲載されている。</p>							
28	羽州秋田郡窪田城絵図帳	正保4	1647		県公文書館		壺帳形式の台帳
<p>本丸をはじめとする各曲輪の大きさや堀・堀の長さなどだけでなく、城外の橋や周囲の山（泉山や寺内山など）に関する情報まで記載されている。同時期に作成された正保城絵図に関連する台帳であると考えられる。</p>							
29	御兵具御蔵棟札	天保15	1844		当館		
	御兵具御蔵棟札	弘化2	1845		当館		
<p>棟札とは、建物を新築・修築した際に、棟木など建物内部の高所に貼り付けられた木製の札のこと。2枚の棟札は、天保15年と弘化2年に西曲輪の兵具蔵が修築された時のものと考えられ、表裏両面に記載がある。事業を主導した家老や勘定奉行などに加え、大工や石工・鍛冶など職人の名前も記録されている。</p>							
30	御城中略図（御作事所御備）	安政6	1859	秋田市	佐竹史料館		本丸御殿
<p>本丸内部の建物群の配置を示しており、特に本丸御殿の構成が詳しく描かれている。加えて、天水桶や用水桶の配置場所や井戸の所在なども細かく書き込まれている。この絵図は藩の火消方の調査により作成され、作事所（建築を担当した役所）に備え置かれた「防災マップ」であった。</p>							
31	出羽国秋田城内絵図	文政4	1821		当館		本丸御殿
<p>本丸御殿の南側半分の間取を示した絵図。ここに描かれている御殿南側は、藩主や家臣が政務を執る政庁として使用された空間が中心となる。部屋ごとに畳の枚数まで記されている。この絵図も、文政4年に派遣された国目付へ提出するために作成された可能性がある。</p>							

32	久保田城二ノ丸跡出土品（陶磁器類など）				佐竹史料館		
	平瓦	江戸時代					
	陶器碗（肥前産）	17世紀前半					
	色絵碗（京焼風）	17世紀後半～18世紀前半					
	染付小碗（肥前系）	18世紀中頃～末					
	青磁皿（肥前系）						
	鉄釉土瓶蓋	18世紀後半～19世紀					
	染付大皿（肥前産）	17世紀中頃					
	灰釉陶器（片口鉢か）	17～18世紀					
33	久保田城跡出土瓦				当館		
	鬼瓦	江戸時代					
	軒丸瓦	江戸時代					
	軒丸瓦	江戸時代					

第3章 残された支城 —横手と大館—

No.	資料名	年代	文化財指定	所蔵者	アーカイブ	備考
34	横手川開鑿直後の下内町絵図	正保年間		横手公文書館		
	下内町とは蛇の崎橋より下流部右岸の武家町を指す（現・横手市本町・二葉町・蛇の崎町など）。横手川の掘り替え工事実施後、まだ間もない時期の様子が描かれている。新たに開削された河道は「新川」、かつての河道は「古川」と記されている。下内町の北部にはまだ古川の水が残り、荒地地も広がっていた。					
35	横手城下絵図	原・寛文9	1669	横手公文書館		
	正保年間の「下内町絵図」と比べれば、新たな足軽町が造成されていることが読み取れるものの、横手川旧河道の名残もまだ色濃く残っている。この絵図には内町だけでなく、外町（横手川西岸）の町人屋敷の住人名も記載されており、城下絵図としては非常に珍しい。					
36	横手城下全図	原・延宝8	1680	横手市 横手図書館		
	題箋には「寛文年間」と記されているが、記載内容をもとにして、延宝8年の城下絵図の写しであると特定されるに至った。城代は須田氏から戸村氏へ交代している。横手城の西麓に広大な屋敷地を構えていた茂木氏は、3年後の天和3年に十二所の所預に任命され、横手を離れることとなる。					
37	横手絵図	享保13	1728	県指定 県公文書館	★公	
	内町・外町のいずれにも町名が記され、道路や橋の長さや幅も詳細に記されている。その一方、延宝図に見られた町人屋敷の間口・奥行の間数は省略されている。当時、家老の今宮大学（義透）が領内の城代・所預へ絵図の提出を命じていたため、横手以外でも同時期に絵図が作成されている。					
38	蛇の崎河原にて諸流派火矢上覧の図	安政5	1858	横手公文書館		
	蛇の崎河原に的場を設け、城代戸村氏の前で火矢の演武を披露した様子を描いた絵図。これによると、当時の横手には少なくとも7人の弓術師範がおり、それぞれ門弟を抱えていたことが分かる。					
39	出羽国秋田領横手城絵図	文政4	1821	当館	★博_歴	国目付へ提出
	国目付へ提出する目的で作成された横手城の城郭絵図。城内の曲輪の大きさ、城門や井戸の数など、詳細な情報が記載されている。平地から本丸までの高さは「15丈3尺3寸（＝約46m）」とある。					
40	横手城二ノ丸絵図	安政5	1858	横手図書館		
	城代戸村氏の居所であった二ノ丸御殿の間取を記した絵図。安政5年に書き写されたこの絵図を、戊辰戦争で横手城が落城した後に、小泉氏という町人が所持していたと伝えられている。					
41	阿桜城（横手城）全景	大正時代		横手市		柴田樸溪 筆
	作者の柴田樸溪（ばいけい）は横手出身の日本画家。横手城は戊辰戦争で焼失しているため、大正時代には建物は残っておらず、かつての横手城を樸溪が回想して描いたものである。丘陵上に本丸と二ノ丸が並立し、曲輪の外縁に簡素な柵を張り巡らせていた、横手城の外観をしのぶことができる。					

42	育英書院沿革／育英書院の図	大正11頃	1922		横手城南高校		伊藤源之助/柴田勇助 筆
育英書院とは寛政7年（1795）に横手城下に設けられた郷校。戊辰戦争で焼失した後に建物は再建され、役場や小学校・警察署などとして使用されたが、明治14年（1881）に再び焼失。大正時代に入り跡地に横手高等女学校（現・横手城南高等学校）が建てられた。							
43	大館城下絵図	原・享保13	1728		大館栗盛記念図書館		
同年の「横手絵図」と同様に、原本は家老今宮大学の命令で享保13年に作成された城下絵図であった。展示資料は大正2年（1913）に模写されたもの。内町にある侍屋敷の住人名と間口・奥行の間数が記されている。城下町のはずれには、羽州街道（津軽海道）の入口と出口、一里塚なども見える。							
44	大館城下絵図	原・宝暦9	1759		大館栗盛記念図書館		国目付へ提出
原本は国目付へ提出した絵図の控であり、大館城と城下町に関する情報が記載されている。侍屋敷の軒数や、足軽町・町人町の町数なども報告されていたことが分かる。その一方、内町・外町ともに屋敷割は記載されておらず、町名や寺院名のみとなっている。							
45	御判紙（複製）	延宝3	1675		大館郷土博物館		
3代藩主佐竹義処から城代の佐竹義房（石見）へ発給されたもの。城代佐竹西家の所領について村ごとに石高が記載され、合計で1万3000石余となる。床岩村（常盤村：現・能代市）や志戸橋村（現・三種町）など、佐竹西家の所領には大館からかなり離れた村も含まれていたことが分かる。							
46	秋田郡大館御城絵図	文政4	1821		当館	★博_歴	国目付へ提出
文政4年に国目付へ提出する目的で作成された大館城の城郭絵図。曲輪の大きさ、堀の長さや幅、城門や井戸の数など、詳細な情報が記載されている。							
47	出羽国秋田領大館城絵図	享保20	1735		当館		土塁損壊
大館城本丸の土塁が合計で11か所損壊し、修築許可を幕府から得るために作成された絵図。							
48	出羽国秋田領大館城絵図	寛政2	1790		当館		土塁損壊
大館城本丸の土塁が3か所で損壊し、修築許可を幕府から得るために作成された絵図。なお、幕府老中へ絵図と願書が提出されたのは翌年正月であることが他の史料に記録されているため、この絵図は下絵図であると考えられる。							
49	佐竹右京大夫願書〔大館城土居崩〕	(寛政2年)	1790		当館		土塁損壊
寛政2年の大館城絵図と一緒に幕府へ提出するために作成された、修築許可の申請願。「佐竹右京大夫」とは9代藩主佐竹義和のこと。11月付となっているが、実際に願書が提出されたのは翌年正月であることが判明しており、これも案文（下書き）である。							
50	大館城跡出土品（陶磁器類）				大館郷土博物館		
	青磁皿（中国産：龍泉窯産）	14世紀後半～15世紀中頃					
	鉄絵小皿（肥前産：唐津）	1590～1610年					
	染付小皿（肥前産：初期伊万里）	1640～50年代					
	色絵中皿（肥前産：有田）	1690～1730年					
51	大館城跡出土品（木製品）				大館郷土博物館		
	漆器椀	江戸時代					
	箸	江戸時代					
52	榴弾	江戸末期			大館郷土博物館		戊辰戦争時
幕末に柘榴（ざくろ）弾、または炸裂弾と呼ばれていた大砲の砲弾。使用された形跡はなく、戊辰戦争中に何らかの事情で廃棄された可能性が高い。昭和25年（1950）頃に、大館城跡のお堀再生事業として行われた泥上げ作業の際に発見された。							

第4章 城のない「城下町」

No.	資料名	年代	文化財指定	所蔵者	アーカイブ	備考
53	湯沢外町絵図	明和2	1765		県公文書館	
湯沢の町人町を描き、各屋敷地の間口・奥行間数と住人名を記している。大半の屋敷地の間口が6間（約10.9m）以上であり、久保田外町の町人屋敷の間口と比べて全体的に広い。また、同じ敷地内に複数の住人名が記されている点も、他にはあまり例がない。						

54	仙北郡角館士民居所図	元禄17	1704		県公文書館	★公	国目付へ提出
幕府国目付の領内巡見にあたり作成・提出された絵図の控となる。絵図右端（北側）に描かれた山には「古城」と記されており、かつて角館城が築かれていたことを物語る。山の麓には佐竹北家（佐竹左兵衛）の館が置かれている。町の中央に設けられた土塁と水路が、武家町と町人町とを隔てる役割も果たしている。							
55	下院内絵図	江戸時代			当館		
雄勝郡の院内は、藩境の関所に近い上院内と、そこから東の下流部に位置する下院内、さらには銀山町に分かれる。この絵図では、下院内の足軽屋敷（軽率屋敷）と町人屋敷（百姓屋敷）を中心とする地域が描かれている。街道沿いには本陣や駅場（人足や馬を常備した施設）の存在も確認できる。							
56	茂木屋敷跡出土品（木製品）				大館郷土博物館		十二所
	下駄	江戸時代					
	漆器椀	江戸時代					
	曲物	江戸時代					
	羽子板	江戸時代					
57	茂木屋敷跡出土品（陶磁器類）				大館郷土博物館		十二所
	染付鉢（中国産：漳州窯産）	17世紀前半					
	染付皿（中国産：景德鎮窯産）	17世紀前半					
	白磁皿（肥前産）	17世紀後半～18世紀初頭					
	青磁皿（肥前産）	1630～40年代					
	青磁香炉（肥前産）	17世紀中頃					
	染付皿（肥前産）	1650年代					
	播鉢（肥前産）	16世紀					
	小鉢（瀬戸美濃産：志野焼）	16世紀末～17世紀初頭					

第5章 近代を迎えた久保田

No.	資料名	年代	文化財指定	所蔵者	アーカイブ	備考
58	羽後国秋田郡秋田城絵図	明治6頃	1873	県指定 県公文書館	★公	
当時久保田城跡地を管轄していた陸軍省によって作成されたものと考えられる。赤い点線で囲まれた区域（三ノ丸を除く区域）が、陸軍省管轄地であった。三ノ丸には旧藩士の屋敷（士族屋敷）が残っているが、この後まもなく城外への移転を命じられることとなる。						
59	秋田庁下市街図	明治13頃	1880		県立図書館	
旧久保田城の周辺に秋田県庁、弘前裁判所秋田支庁、監獄署、秋田県師範学校、秋田県女学校（秋田女子師範学校か）などが見える。明治時代の諸官庁や学校等を記した秋田の地図としては、現存する最古のものである。						
60	秋田旧城之図（明治十七年陸軍省所轄地秋田城郭全図）	明治17	1884		県立図書館	
陸軍省の管轄下で作成された地図で、測量作業に基づいて作図されており、旧城の曲輪の正確な地形を把握することができる。井戸の印も城内に多数記されている。また、本丸北西の御隅櫓や表門（一の門）、裏門などが図示されており、この時点ではまだ残っていた可能性が高い。						
61	秋田県公園絵図	明治29	1896	県指定 県公文書館	★公	長岡安平 筆
久保田城跡を公園として整備するため作成された絵図。本丸跡には、明治11年（1878）に藩祖義宣を祀るために創建された秋田神社が移転されることとなり（後に八幡神社と合祀）、戊辰戦争の犠牲者や県出身の軍人を祀る招魂社（現・秋田護国神社）の再建予定地も本丸跡に示されている。						
62	秋田市詳密地図 附商工人名記	明治34	1901		当館	★博_歴
明治22年（1889）に大工町と土崎の間で開通した馬車鉄道の路線も見える。市街地東部（地図上部）の秋田駅をはさみ南北に走る路線も描かれている。ただし、秋田駅が開業するのは翌明治35年のことであるため、予定図として記されたものと推測される。なお裏面には、町ごとの商店や事業所の一覧が印刷されている。						

63	絵葉書	明治～大正時代		個人蔵		
	鷹匠町より公園を望む					
	秋田千秋公園入口					
	上土橋より広小路蛇柳を望む					
	秋田市四丁目河岸					
	長町通りの風景					
	秋田広小路より千秋公園を望む					